

令和7年度バリューチェーン全体での脱炭素化支援モデル事業  
脱炭素経営フォーラム発表資料

# 「紙おむつ業界」共通のCO<sub>2</sub>排出量の算定基準・算定方法の策定／ CO<sub>2</sub>排出量削減に向けて

(一社) 日本衛生材料工業連合会

2026年3月5日

# 参加者(9社、19名)

ユニ・チャーム株式会社	Global品質保証部 参与	宮澤 清
ユニ・チャーム株式会社	Global品質保証部 マネージャー	倉田信弘
ユニ・チャーム株式会社	ESG本部 ESG推進部長	辰巳研一
花王株式会社	サニタリー研究所 上席執行役員	前田勝司
花王株式会社	開発戦略部 主席開発員	杉野希代子
花王株式会社		高橋正勝
P & G ジャパン合同会社	プリンシパル サイエンティスト	瀬戸洋一
P & G ジャパン合同会社	薬事・渉外担当 シニアサイエンティスト	三戸裕太
白十字株式会社	ヘルスケアブランディング課課長代理	柴野壮史
日本製紙クレシア株式会社	ヘルスケア研究所 課長	水口 克
日本製紙クレシア株式会社		小山皓大
大王製紙株式会社	H&PC部門新規商品開発部	塩見剛之
大王製紙株式会社	コーポレート部門サステナビリティ推進部	橋本直樹
王子ネピア株式会社	商品開発部 部長	杉山勝彦
王子ネピア株式会社		伊藤量平
王子ネピア株式会社		本間太一
(株)リブドゥコーポレーション	イノベーションセンター シニア・フェロー	三好弘明
(株)リブドゥコーポレーション		中岡健次
株式会社光洋	営業本部統括次長	井手口康政
(一社) 日本衛生材料工業連合会	専務理事	仲野幸弘
(一社) 日本衛生材料工業連合会	常務理事	伊勢田直仁
(一社) 日本衛生材料工業連合会	参与	高橋紳哉

# 応募の背景・目的と狙い

## 応募の背景・目的

本モデル事業に参画する前から「**業界共通の算定方法の策定とCO2排出量低減に向けた活動(目的)**」を計画していた。その進め方の議論の最中、本件の募集があり、専門家の指導を受けながら、当初の計画の遂行を試みることにした。対象は「**紙おむつ**」を選定。

子供・大人用  
テープタイプ



子供・大人用  
パンツタイプ



尿取りパッド



軽失禁パッド



## 本事業モデルでの狙い

1. 業界全体として、環境への意識を高める
2. 業界共通の算定基準策定／利用による社会への信頼性と透明性の向上
3. 新たに算定に取り組む会員企業の作業負荷低減とCO2削減の土台にする
4. 国際的な環境評価対応(業界基準の算出ベースで議論ができる)

## 本モデル事業を通じたアプローチ

環境省事業の枠組みを使って業界内の合意形成を推進し、先行企業の認定済PCRに基づき、業界内での活用を進めていく

# 事業成果①:2024年 紙おむつCO2総排出量の算出

## <算出条件>

1. 時間的制約もあり、「カテゴリー1:原材料購入量」と「カテゴリー12:廃棄量」に絞って活動量とし、算出
2. 原材料購入量は、企業のマル秘情報の為、今回は「経産省の紙おむつ生産量の統計データ」を活用
3. 排出係数は、環境省のDBを活用
4. 紙おむつの構成(プラスチック/パルプ)は、過去の調査データを活用
5. 算出は「紙おむつ本体」に絞る。また廃棄は「焼却」に限定

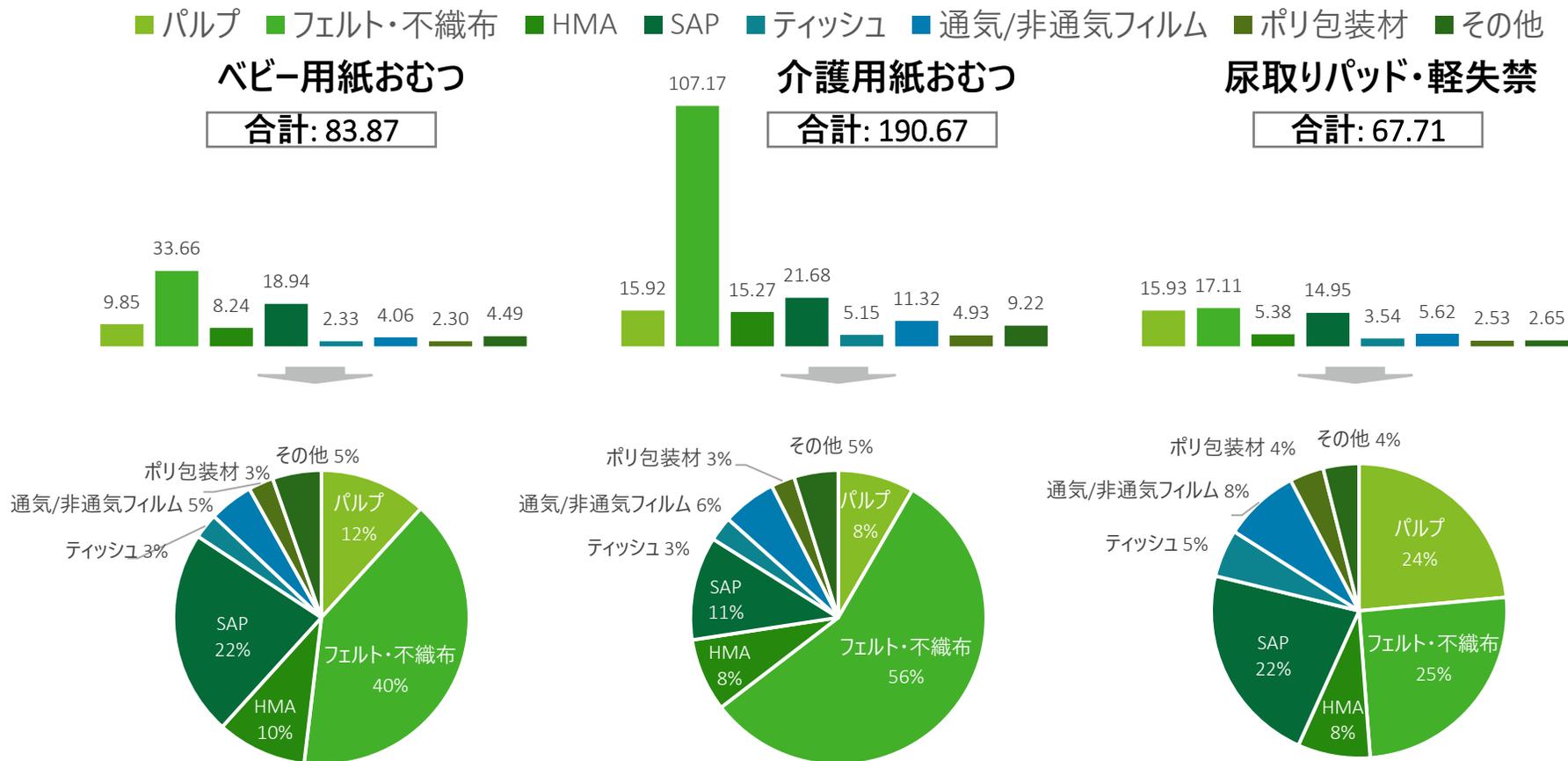
	原材料由来のCO2排出量	廃棄（焼却）由来のCO2排出量
ベビー用	344,188	332,091
大人用	241,897	242,880
軽失禁	368,217	390,265
合計①	954,303	965,236
総排出量	1,919,539(t-CO2eq)	

2024年は紙おむつから、「約190万ton/y」のCO2を排出している

# 事業成果②:ホットスポット分析例

◆1社のCFPをベースとしたホットスポット分析を実施(IDEAのDB利用)

## ■原材料調達段階



# 今後の取組み(案)

## 1. 算出の精度を上げる

今回は、検討時間の制約等もあり、限定したカテゴリー／対象にした部分あり。また本来使用しなければならないデータに統計データを使用していたところがあり、その点を次の検討課題に挙げる。

- ①紙おむつ本体+「パッケージ、段ボール」等
- ②カテゴリー1と12以外のカテゴリーへの対応
- ③各社秘匿データを用いた算出結果の提出と集計

## 2. CO2削減への取組み

- ①サプライヤー、リサイクラー(?)との協業によるCO2削減方法検討
- ②1次データが算定に活用できる環境(土台)の整備

現監査基準・認定制度に基づくと1次データに対する第三者保証・検証がとれない。また、主要DBにサプライヤーの削減努力が十分反映されず、紙おむつからの削減効果が見せられない状況